

# 作文部門三賞

・青森県教育委員会教育長賞

## お米パワーありがとう

大久喜小学校（八戸市）

二年野里国汰ざと きょうた

ぼくは、お米が大きです。ほかほかでおいしいし、なつとうをまぜても、あさりをたきこみにしても、せきはんにしてもさいこうです。いろいろなすがたにへんしんするお米は、にんじやみたいですね。

生活科の町たんけんでたくさん歩いた後、お日さまの下、みどりのしばふにすわって、青い海を見ながら、さけのおにぎりを食べました。大きな口でがぶつとかぶりついて、ゆっくりもぐもぐもぐとかんだら、かむたびに体の中にぐいんぐいんとパワーが回っていました。そのとき思い出しました。お米の中に、七人のかみさまがいると教えてもらったことを。だから、ごはんを食べると体の中から、かみさまがおうえんしてくれたんだと思いました。

さいがいでひなんじょにいる人たちが、おにぎりを食べて、少しだけにつこりしているニュースを見ました。よかつたなあと思いました。お米は、人の生きる力です。

でも、かなしいニュースも見ました。大雨で川があふれて、田んぼが水びたしになっているニュースです。どうだらけのいねは、だらんと下をむいてないでいるようです。お米をつくっている人

も、かなしそうでした。ぼくも学きゅう園で野さいをつくっていますが、なかなかうまくいきません。だから、くろうしてお米をつくっていたんだと思います。

ぼくは、お米がないと生きられません。ぼくと同じように、日本中、せかい中にお米から元気をもらっている人がたくさんいるはずです。ぼくは、お米を一つぶものこさず食べます。米とぎをするときは、やさしくあらって、一つぶもながさないようにします。これからうつと、ずうっとです。そして、お米からパワーをもらって、元気にあそんだり、べんきょうしたりして、りっぱな日本のおとなになりたいです。

